（別添3）

【日向市】
校務 DX 計画

1 宮崎県「教育の情報化」推進プランにおける校務DXの取組について

令和6年4月に改訂した「宮崎県『教育の情報化』推進プラン」において、「校務DX」に関する、以下の3つの具体的取組を設定している。

（1）業務を支援するツールを活用した効率化の推進
（2）次期校務支援システムへの移行
（3）校務における生成AIの活用推進

県が設定しているこれらの具体的取組をもとに、本市としての目指す方向性を設定し、関係各課と各学校が連携を図りながら進めていく。

2 「校務DXチェックリスト自己点検結果」における課題等について

「宮崎県『教育の情報化』推進プラン」に係る取組に加え、「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリストの自己点検結果」（文部科学省　令和5年11月実施）を数値化した結果では、職員会議でのペーパーレス化や総合型校務支援システムの活用などについては、一定の成果が見られたものの、学校から家庭への紙文書の配付や提出文書に押印や署名を求めていること、クラウドサービスを活用した保護者との連絡体制の充実、教職員と児童生徒の連絡等のデジタル化が課題となった。そこで、以下の（1）～（3）を重点事項とし、校務DXを一層推進するものとする。

（1）GIGA 環境・汎用クラウドツールの一層の活用

学校と保護者双方の負担軽減を目的に、学校からの文書配付や各種アンケートへの回答などを可能な限り汎用クラウドツールを活用したものに変更していく。そのため、職員については県から付与されている個人メールアドレスを活用しながら、また、児童生徒については新たにIDを付与し、校務における効果的な活用の好事例を共有するなどして、汎用クラウドツールの活用を推進していく。

（2）FAX・押印等の制度・慣行の見直し

自己点検の結果によると、全ての学校で FAX が使用され、保護者や外部間において押印・署名が必要な書類のやり取りが行われている。FAXや押印等について、制度・慣行の見直しを行うとともに、各学校や FAX での送付や押印を求めている関係団体・事業者等を把握し、制度・慣行の見直しを図るよう求める働きかけを行っていく。

（3）職員と児童生徒間の連絡等のデジタル化

学習支援ツールや汎用クラウドツールを活用し、課題の配付・提出・フィードバックのデジタル化を推進する。これにより、学習の進捗管理を効率化し、職員の業務負担を軽減する。さらに、家庭でも活用できる

ように持ち帰り学習の環境を整備し、学校外での学習機会を拡充する。併せて、児童生徒向けのICTリテラシー教育を充実させ、安全かつ適切なデジタル活用の習慣を定着させる。

3 今後の計画について

○ クラウドサービス活用の拡充

・ 外部及び授業におけるクラウドサービス活用についての研修の実施（令和6年度～）

・ 児童生徒への汎用クラウドツールのID付与（令和7年度～）

○ 校務における生成 AI の活用

・ 校務における生成 AI の活用についての情報提供（令和6年度～）

・ 研修の実施（令和7年度～）

○ FAX・押印の見直しに向けての検討

・ FAX、押印に関する詳細な実態把握（令和6年度～）

・ 関係団体・事業者等への制度・慣行の見直しを求める働きかけ（令和7年度～）